

1 山車まつりツアー一見学先の祭りの概要

田原祭り

城下町田原を代表する祭りである田原祭りは、江戸時代の熊野神社の祭礼として始まったと伝えられています。祭りでは、市有形民俗文化財に指定されているからくり人形を乗せた3台の山車や各町の神輿などが街中を練り歩き、夜は着飾った子どもたちや青年が夜山車（よやま）の上で手踊りを披露し観客を魅了します。祭りのフィナーレを迎える最終日の夕方になると、はなのき広場で手筒・大筒花火が勇壮にあげられ、打ち上げ花火が夜空を焦がします。



尾張横須賀まつり

江戸時代初期に横須賀御殿を訪れた尾張藩2代藩主徳川光友公のために行われたという傘鉾（かさぼこ）祭りがその起源とされます。現在のように山車が曳き廻されるようになったのは江戸時代後期のことと言われています。愛宕（あたご）神社の秋の祭礼に合わせて各町内から4輦の山車が曳き廻されます。まつりは山車を十字路で回転させる「どんてん」でクライマックスを迎えます。



有松祭り

有松天満社の秋の祭礼には、3輦の山車が曳かれています。有松での祭礼は、当初は傘鉾や馬之頭（おまんとう）が中心でしたが、江戸時代後期には、有松でも何らかの車輪が付いた祭車を出していたと伝わります。現在では傘鉾や馬之頭が練り歩くことはなくなりましたが、東町、中町、西町から山車が出されています。また、昭和10年ごろ、鳴海の猩々（しょうじょう）を真似て天狗や猩々を作成し、現在でもこれを被り町内を練り歩いています。



尾張津島秋まつり

尾張津島秋まつりの山車行事は七切（ななきり）・今市場（いまいちば）・向島（むかいじま）・神守（かもり）の4地区で傳承されています。津島の山車にはすべてからくりがのっており、個性豊かな迫真の演技が見られます。前輪を浮かせ山車を回す「車切（しゃぎり）」を行う姿も勇壮です。また、威勢よく鉦（かね）や太鼓を打ち鳴らしながら石採祭車がまちを練り歩いていきます。山車と石採祭車（いしどりまつりぐるま）は、どれも100年以上の歴史がある津島の大切な文化財です。



足助祭り

足助八幡宮例祭は、試楽祭と本楽祭からなり、「足助祭り」と称されます。2日間で、山車4輦の町内曳き廻し、神輿渡御（みこしとぎょ）、宮入（みやいり）、火縄銃、棒の手、梵天（ぼんてん）投げが行われます。梵天投げの後、山車に提灯を飾り付け、各町に戻っていく姿は幻想的な雰囲気です。足助八幡宮の本殿は国の重要文化財に指定、足助の町並みは伝統的建造物群保存地区に選定され、壮大な歴史を感じられます。



第九回 はんだ山車まつり

多くの山車行事が残る愛知県の中でも、半田市は市内10地区で31輦の山車が大切に守られてきた「山車のまち」です。「はんだ山車まつり」は、市内31輦すべての山車が半田運河周辺に集結、供覧の後、整列会場に入場し、横一列に勢揃いするもので、その様は壮観そのものです。また、からくり人形や獅子舞などの伝統技芸の妙技は見る人を魅了し、全国から50万人を超える来場者でにぎわいます。今回は6年ぶりの開催となります。



※ツアーの対象時間外で、ガイドのない場面もありますので、あらかじめ御了承ください。

2 山車施設の概要

どんでん館

毎年4月の第1土日に行われる「犬山祭」の車山（やま）を展示。精巧な造作が施され、漆や金箔で彩られた車山は迫力満点です。また、祭りの雰囲気や年中体感できるよう、祭りの1日を6分に短縮した光と音の演出もあります。建物は城下町に見られる間口の狭い造りになっており、展示室では祭りで子どもが着る「金襴袴（きんじゅばん）」なども見ることができます。また、ツアー当日は、犬山祭で奉納される「からくり」の妙技や一部の車山を一般公開するイベント「からくり町巡りを観覧できます。



田原まつり会館

田原の街の中心近く、のぼりがはためく白壁造りの蔵の建物が、田原市の祭りを紹介する施設、まつり会館です。館内には、田原祭りで練り歩く3台の山車のうち2台が常設展示されていて、本物ならではの迫力と華麗さに圧倒されます。「凧まつりコーナー」には初凧やけんか凧が展示されているほか、凧作り教室も開かれています。



立川美術館

日本の伝統美術の一つで、江戸時代の代表的な宮彫りの流派である「立川流彫刻」を展示・紹介するとともに、知多半島で活躍している作家の企画展示も行っています。また、ユネスコ無形文化遺産に登録されている「亀崎潮干祭」を山車に乗車しながら体験できる「VR 潮干祭体験」や、からくり人形の演技鑑賞と操作体験のできるコーナーも併設され、半田亀崎の町並と文化を感じられます。



有松山車会館

有松にある3台の山車のうち、1台を定期的に展示しています。豪華な飾り付けをした山車を、身近にゆっくり見ることができます。春季大祭（3月第3日曜日）、秋季大祭（10月第1日曜日）の歴史資料等も展示されています。



蟹江町観光交流センター 祭人

2016年にユネスコ無形文化遺産に登録された「須成祭（すなりまつり）」（「山・鉦・屋台行事」を構成する33の行事のうちの1つ）について、映像技術（バーチャル・リアリティ、プロジェクション・マッピング）を活用した展示や、祭りで使用する道具を展示することにより、須成祭に関する情報を発信します。また、町内で伝承されているその他の祭りや、観光情報等も紹介します。

